

東アジア文化都市
2016 奈良市

実施計画

2016 年 1 月

目次

1. 趣旨	P 2	5. 広報計画	P 15
(1) 東アジア文化都市とは		(1) 基本方針	
(2) 東アジア文化都市 2016 奈良市 事業主旨		(2) 広報活動	
(3) 東アジア文化都市 2016 奈良市 テーマ		(3) 広報戦略	
		(4) 告知イベント・各種ツール	
		(5) 記録	
2. 事業概要	P 4	6. 支援者（サポーター）計画	P 18
(1) 事業構成		(1) 地元サポーター	
(2) 年間スケジュール		(2) 県内外サポーター	
		(3) 国際サポーター	
		(4) 活動拠点・受入体制づくり	
3. 事業内容	P 6	7. 事業推進スケジュール	P 19
(1) 基幹事業－舞台芸術部門		8. 事業推進体制	P 20
(2) 基幹事業－美術部門		9. 予算	P 21
(3) 基幹事業－食部門			
(4) 交流事業			
(5) 連携事業			
4. コア期間	P 14		
(1) 開催概要			
(2) 運営計画			

1: 趣旨

(1) 東アジア文化都市 とは

「東アジア文化都市」は、日本・中国・韓国の3か国で、文化による発展をめざす都市を各国1都市選定し、それぞれの都市が1年を通じて行うさまざまな文化プログラム等で交流を深める国家プロジェクトとして、2014年から取り組まれています。現代の芸術文化や伝統文化、多彩な生活文化に関連するさまざまな文化を通して、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることをめざします。

また、開催都市はその文化的特徴を生かして、文化・クリエイティブ産業・観光の振興を図り、継続的に発展することをめざします。

選定都市について

	日本	中国	韓国
2014 年	横浜市	泉州市	光州広域市
2015 年	新潟市	青島市	清州市
2016 年	奈良市	寧波市	済州特別自治道
2017 年	京都市 (候補都市)	(未定)	(未定)

注) 毎年開催される日中韓文化大臣会合によって、翌年の開催都市が正式決定される。



《東アジア文化都市 2016 パートナー都市》

■中国パートナー都市

寧波市（ねいはし、ニンポーし）

〔総人口〕約 764 万 〔総面積〕9,816 km²

中華人民共和国浙江省の東部に位置する副省級市。沿海部の港湾都市として商工業が発達しているが、同時に古い歴史を誇り、国務院から国家歴史文化名城に指定されている。「書藏古今、港通天下（書は古今を蔵し、港は天下に通ず）」をスローガンとする。

唐・宋の時代から海外貿易で栄え、早くから日本との往来が盛んであった。遣唐使が中国大陸への上陸港としてめざした寧波港は、長い歴史をもつ中国の港の一つである。古代の「海上シルクロード」の始発港であり、7000 余年の歴史を誇る河姆渡文化の発祥地である。

名所としては、天一閣・月湖・天童禅寺・阿育王寺・河姆渡遺跡などがある。

■韓国パートナー都市

済州特別自治道（チェジュとくべつじちどう）

〔総人口〕約 61 万 〔総面積〕1,847.77km²

済州特別自治道は、大韓民国本土南西部に位置する済州島全体と牛島・馬漢島等の附属小島嶼を道としている行政区。道都は済州市。温暖な気候に恵まれ、国際自由都市としてカジノが公認されているため、日本・中国・台湾からのリゾート客も多く、観光業が盛んである。

韓国の三国時代にはじめて「耽羅国」という国家が済州島に誕生し、高麗王朝に編入、朝鮮王朝時代には全羅道の一部となった。第二次世界大戦後には済州道となり、2006 年にはより高度な自治権を有する済州特別自治道となった。

道内には、韓国政府支配地域最高峰の漢拏山がそびえたち、一帯は「済州の火山島と溶岩洞窟」としてユネスコの世界遺産に登録されている。

(2) 東アジア文化都市 2016 奈良市 事業主旨

diversity (多様性) と inclusion (包摂性)

奈良は、日本という国の制度が初めて整った地というばかりでなく、シルクロードを通じて東アジアの文化が渡来した歴史的・文化的な意味をもった都市です。古都奈良は、世界に門戸が開かれた進取の気風に満ち溢れた国際交流都市でした。1300 年前に花開いた天平文化の高い芸術性・精神性は、中央アジアから東端の日本に至る雄大な空間と時間、多様な人々の営みと文化交流の結晶でもありました。そして、diversity (多様性) と inclusion (包摂性) をもって、世界と向き合ってきました。その気風は現在の奈良にも脈々と息づいています。

coexistence (共生)

人々は奈良の地がもつ懐の大きさの中で、自然や歴史、文化を大らかに調和させてきました。それはあたかも人の手を経ないで成ったもののようにも思われがちですが、実は長い年月をかけて造られてきたものです。美しい自然、鹿、悠久の歴史、国宝の建築物や正倉院の宝物、信仰...これらが緩やかなまとまりの中で対立することなく、調和が保たれ、世界に類を見ない姿を現出しています。それは奈良の重層的な歴史の中で生活文化と融合し、共生の風土として根付いてきました。

tolerance (寛容)

私たちはこの姿を世界に発信できる奈良の強みと考えます。対立の構図が際立ち、紛争の火種があちこちで燦々している現代社会に対して、「東アジア文化都市」奈良市は自らの価値を再発見し、その寛容の精神を、アートをツールとして果敢に訴えていきます。

(3) 東アジア文化都市 2016 奈良市 テーマ

「古都奈良から多様性のアジアへ」

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業では、主に「舞台芸術」「美術」「食」を切口に、アジア諸地域の文化的共通性を確認し、発信していきます。グローバル化による世界の均質化・同質化の波が押し寄せる現在、アジアの諸地域は自らのアイデンティティと文化をあらためて見つめ直すなかで、同じように格闘するさまざまな地域とつながり、交流することを通して自らの文化を育み、あらたな展望を切り開こうとしています。日本各地のみならず、アジア諸地域で活発に開催されている芸術祭や芸術文化による地域づくりはそうした企図をもって取り組まれています。

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業では、古都奈良の開かれた精神性を礎に、各都市で行われているさまざまな芸術祭・地域づくりの取り組みをつなぎながら、アジアの共通性と多様性を明らかにしていきます。

異なる文化間の絶えざる交流の中に創造力の源泉があります。古都奈良はアジア各国の人々とこの事業を通じて広く深くつながり、それぞれの文化を尊重しながら伝統と創造を響かせ、アジアの平和構築をめざします。

2: 事業概要

(1) 事業構成

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業の柱となる「基幹事業」、中国・韓国のパートナー都市と共に開催する「交流事業」、奈良の既存のポテンシャルを生かしさまざまな事業と連携し発信する「連携事業」で構成されます。

■基幹事業

主に「舞台芸術」「美術」「食」に種別し、それぞれのジャンルに専門ディレクターを配し、作品やプログラムの質を高めて実施します。

■交流事業

伝統芸能や、音楽、学術研究といった複合的なプログラムを展開します。複層的にさまざまなジャンルが影響しあって醸成される文化を立体的に発信します。

■連携事業

古都奈良の魅力を生かすため、文化的ポテンシャルの高い既存事業や博物館・美術館等の企画展、各社寺の伝統行事などと連携を図ります。

	ジャンル	事業内容	目的・効果
基幹事業	舞台芸術	野外舞台公演 (現代演劇を上演する劇団を招へい)	集客・発信
		高校生と創る演劇	市民参加・創作・人材育成
		万葉オペラの上演	市民参加・創作・発信
	美術	市内社寺で展開するアートインスタレーション (世界的なアーティストを招へい)	集客・発信
		奈良町でのアートプロジェクトの展開	市民参加・市民交流
	食	奈良発祥といわれる食のルーツを探り、奈良独自の食文化を体験	市民参加・市民交流
交流事業	オープニング	記念シンポジウムと式典・オープニングステージ	事業開始を全国発信
	期間中	伝統芸能等による交流	市民が直接交流し、互いの文化に対する理解を深める
		映像制作による交流	
		文字をテーマとした交流とプログラム展開	
		青少年交流事業	
	クロージング	式典やパフォーマンス	事業の締めくくりと次回開催都市のアピール
連携事業	企画連携	平城京天平祭・春日野音楽祭・なら国際映画祭 等	奈良ならではの催事や伝統行事を発信し、相乗効果を期待
	市民連携	市民が企画する事業への支援	
	広報連携	相互広報活動	

(2) 年間スケジュール

2016 年に実施されるさまざまな事業全体を「東アジア文化都市 2016 奈良市」として実施し、その中でも発信性の高い事業を開催する 2 か月程度をコア期間と定めて、集中的に事業展開及び広報を行います。

2016 年 1 月 28 日 企画発表会

3 月 26 日 奈良市 オープニング (東大寺)

国際文化観光都市「奈良」を象徴する東大寺で、世界平和への祈りを捧げるとともに、「2016 東アジア文化都市」事業が奈良市で開催されることを世界に発信するため、シンポジウムと式典・オープニングステージを開催します。

9 月 3 日～10 月 23 日 奈良市 コア期間 「^{ことほぐなら}古都祝奈良-時空を超えたアートの祭典」

奈良の魅力を発信する場所で、「舞台芸術」「美術」「食」の基幹事業を行い、集客・発信を行います。

12 月 奈良市 クロージング

「東アジア文化都市 2016 奈良市」を締めくくる交流イベントを開催します。

2016 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
基幹事業・交流事業	28 日 企画発表会		26 日 奈良市オープニング	7 日 濟州道オープニング 15 日 寧波市オープニング					コア期間 (9/3～10/23) 「古都祝奈良-時空を超えたアートの祭典」			クロージング (予定)
					交流&制作期間							
連携事業					平城京天平祭「春」			なら燈花会 平城京天平祭「夏」	春日野音楽祭 なら国際映画祭		平城京天平祭「秋」	

3：事業内容

(1) 基幹事業 — 舞台芸術部門

ディレクター平田オリザ氏監修のもと、野外で現代演劇を上演するとともに、市民参加型のプログラムを実施します。

平田オリザ



1962 年東京都生まれ。劇作家、演出家。

1982 に劇団「青年団」結成。「現代口語演劇理論」を提唱し、1990 年代以降の演劇に大きな影響を与える。1995 年『東京ノート』で第 39 回岸田國士戯曲賞受賞。2003 年日韓合同公演『その河をこえて、五月』で、第 2 回朝日舞台芸術賞グランプリ受賞。2011 年フランス国文化省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。近年はフランスを中心に各国との国際共同製作作品を多数上演している。

撮影：青木司

■野外舞台公演

奈良の魅力を発信する場所で現代演劇を上演することで、奈良の貴重な歴史・文化遺産や古代都城文化を有する国際交流都市奈良への理解向上を図ります。

また、舞台周辺には食による交流など、複合的な文化体験ができる空間を創出します。

○日程：2016 年 9 月中旬～10 月上旬

○参加劇団： 維新派、SPAC

劇団「維新派」

1970 年、松本雄吉氏を中心に大阪で活動を開始。劇団員総勢 50 名ほどが巨大な野外劇場を自らの手で作り、公演が終われば釘一本残さず、解体して撤収し、再び更地に戻すという徹底ぶりである。野外でしか成し得ない「一回性の劇場」にこだわり、これまで、熊野本宮大社跡（和歌山県）、犬島銅精錬所跡地（岡山県）などで公演を行ってきた。また公演時には通称「屋台村」と呼ばれる、様々な食事や雑貨やライブステージ空間も併設することで、劇場全体が祝祭的なムードを持った「架空都市」になることも、多くの観客を魅了している。海外からの招へいも多く、国内外のさまざまな場所で公演を行ってきた。

トワイライト（2015、曾爾村）



撮影：井上嘉和

SPAC-静岡県舞台芸術センター

静岡県舞台芸術センター（Shizuoka Performing Arts Center：SPAC）は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団である。舞台芸術作品の創造と上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的として活動している。1997 年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007 年より宮城聡が芸術総監督に就任し、事業をさらに発展させている。2014 年にはフランスの世界的な演劇祭「アヴィニョン演劇祭」の公式プログラムとして宮城聡演出『マハーバーラタ』が招へいされ、称賛を浴びる。

マハーバーラタ



撮影：日置真光

■高校生と創る演劇

青少年が演劇の創作現場を体験することで、コミュニケーション能力・想像力・創造力の開発につなげ、次代を担う地域における文化芸術活動を支える人材の育成をめざします。奈良市内の高校生を中心にワークショップを行い、部門ディレクターの平田オリザ氏とともにオリジナル演劇を創作し、上演します。

○期間：2016年8月～12月

- ・ワークショップ：8月
- ・オーディション：10月
- ・創作活動：11月～12月
- ・公演：12月23日（祝/金）～25日（日）

○会場：ならまちセンター（市民ホール）等

■万葉オペラの上演

奈良の芸術・文化・歴史の魅力を探求し、発信する事業として市民に親しまれている万葉オペラ・ラボとともに、本事業を一過性のイベントではなく、文化による地域づくりの一環として取り組むべく、市民が主体的に参加し、演じるプログラムを実施することで、更なる奈良の文化育成に寄与します。

○日程：2016年10月1日（土）、2日（日）

○会場：なら100年会館（大ホール）

「万葉オペラ『遣唐使物語』
—名も無き民へのオマージュ—
音楽：中村透 原作・脚本：上野誠

万葉オペラ・ラボは現在、オペラのソリストをめざし専門的に学ぶ学生や若手演奏家のグループ、小学生～中学生のコーラスグループ、市民による合唱団の3つのグループを組織し、活動が続いている。

2016年10月の上演作品は、玄宗皇帝の寵愛を受け、唐の国の大臣となった阿倍仲麻呂、二度の渡唐を経て日本の大臣となった吉備真備、36歳の若さで、唐で病死した無名の遣唐使、葛井真成という唐に渡った3人の留学生の友情の物語であり、「万葉オペラ」として奈良から世界へ発信する。

オペラ『遣唐使』



写真撮影：阿部稔哉

(2) 基幹事業 — 美術部門

部門ディレクターを(株)アートフロントギャラリーが担当し、奈良の豊富な文化遺産を生かしたプログラムを実施します。

株式会社アートフロントギャラリー



ART FRONT GALLERY

北川フラムが代表を務める
美術・文化全般に関わる会社。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」（新潟県十日町市・津南町）、「瀬戸内国際芸術祭」（香川県・岡山県）などの地域づくり、美術館・文化施設の企画運営、コミッションワーク、ギャラリー、文化プロデュース等、アート・文化に関わる事業全般を行っている。作品のもつ時代精神、未来への予感に寄り添い、美術を広く国際的な観点で捉え、深く社会的な場で展開することを目的とする。

■市内社寺で展開するアートインスタレーション*

*場所や空間全体を作品として体験させる芸術。

仏教の伝来は学問・哲学・社会システムの伝来でもあり、日本の文化にも多大なる影響を与えました。奈良時代以降、宗教都市として東アジアの国の交流の一端を担ってきた歴史的な背景を踏まえ、奈良の文化の象徴でもある市内の社寺に、日本に文化の伝播をもたらした国々から第一線で活躍するアーティストを招へいし、アートインスタレーションを展開します。

○期間: 2016年3月26日(土)～10月23日(日)＜東大寺・蔡國強 “船をつくる”＞
2016年9月3日(土)～10月23日(日)＜コア期間＞

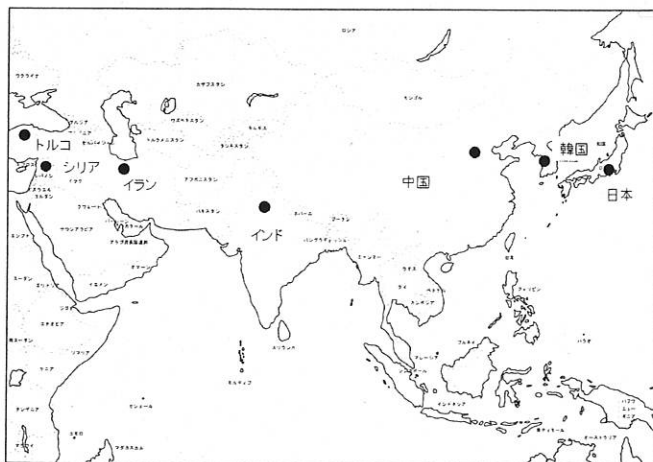
○参加予定作家（出身国）

蔡國強（中国）	シルパ・グプタ（インド）
キムスージャ（韓国）	サハント・ヘサミヤン（イラン）
川俣正（日本）	ダイアナ・アルハディド（シリア）
紫舟（日本）	アイシャ・エルクメン（トルコ）

○会場: 市内社寺（東大寺・元興寺・大安寺・唐招提寺・春日大社 他）

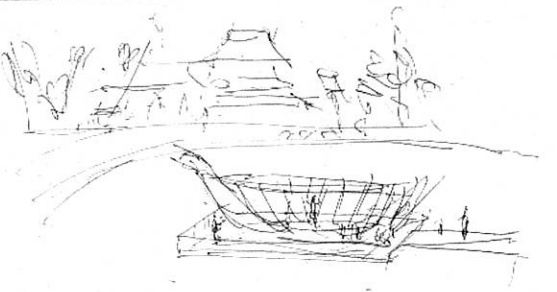
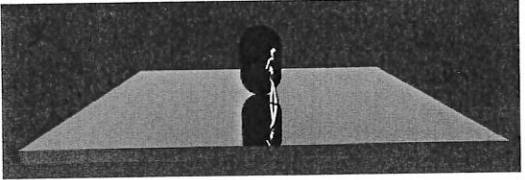


会場予定地

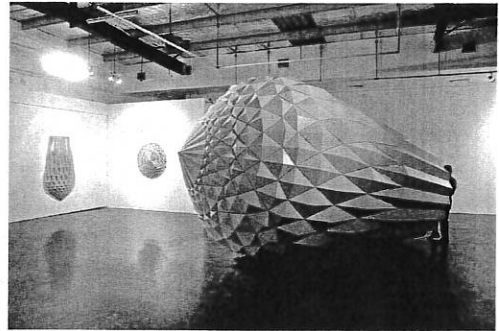
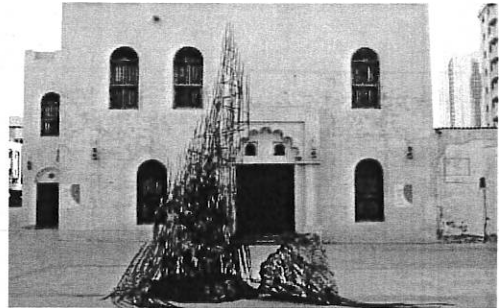
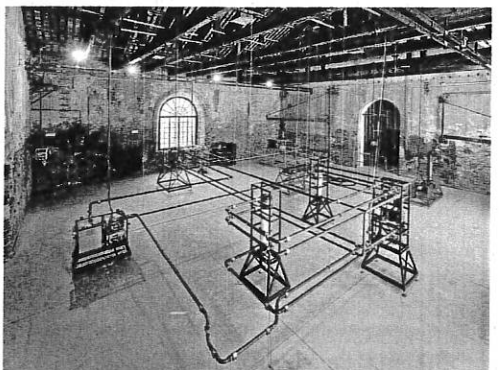


参加予定作家出身国

○参加作家

東大寺	蔡國強（中国）“船をつくる” 1957年 中国福建省生まれ。1986年～95年に日本で学んだ後、アメリカに移住。現在ニューヨーク在住。1999年 ヴェネツィア・ビエンナーレで金獅子賞受賞。2007年 広島賞、2009年福岡アジア文化賞、2012年高松宮殿下記念世界文化賞等、受賞多数。2008年 北京オリンピック開・閉会式、2011年 APEC 開会式典等、中国の国家的催事でアーティストディレクターを務めるなど、中国を代表する現代美術家。 本事業では、海を介して互いの文化が影響し続けた東アジアの国々の文化交流の象徴である“船”を公開制作する。	プロジェクトイメージ 
元興寺	キムスージャ（韓国） 1957年 韓国テグ生まれ。ソウルで学んだ後、フランス、ニューヨーク等に滞在。現在ニューヨーク在住。写真、インスタレーション、パフォーマンス、ビデオ等、表現方法は多岐にわたる。さまざまな国で活躍する彼女は、自身の制作活動を「針」として、人々や国、風景の間を縫い合わせる行為を重ねる、韓国を代表する現代美術家。 本事業では、宇宙・誕生をテーマに作品を制作する。	プロジェクトイメージ 
大安寺（史跡大安寺旧境内）	川俣正（日本） 1953年 日本生まれ。現在パリ在住。1982年 28歳でヴェネツィア・ヴィエンナーレの参加作家に選ばれる。以後、欧米を中心に高い評価を獲得し続けている。2012年文化庁芸術選奨文部科学大臣賞受賞、2014年フランス文化芸術勲章授章（オフィシエ）。2005年 横浜トリエンナーレ総合ディレクター、東京藝術大学「先端芸術表現科」の初代主任教授など、美術表現の枠組みを超えて活躍。パリ国立高等芸術学院の教授も務める、日本を代表する現代美術家。 本事業では、ダイナミックな空間造形力を生かした塔を制作する予定。	参考イメージ：豊洲ドーム 
春日大社	紫舟（日本） 書家・アーティスト。書という表現手段を使い、文字に表情・感情をつけ情報としての文字をそれ以上にしていく。その作品は、世界から高い評価を受け、2014年フランス国民美術協会から日本代表アーティストに選出されたルーブル美術館 Carrousel Du Louvre での展示では、書画・彫刻の全作品で最高位の「SNBA 金賞」「審査員賞金賞」受賞。2015年同展にて主賓招待作家となる。国内では「龍馬伝」で手島右卿賞受賞、G1サミット新世代リーダーアワード受賞。 本事業では、インタラクティブアート*を展開予定。 *観客が何等かの方法で参加する芸術の一形態。	参考イメージ：紫舟+チームラボ、音楽/高橋英明 「はじめて かみさまが おりたところの ものがたり」 

3: 事業内容

シルパ・グプタ (インド) 1976 年 インド、ムンバイ生まれ。伝統的なインドのコミュニティで生まれ育ち、民族、宗教、階級、経済格差など、国際的な視野から現代社会の問題を捉え、その表現は、映像・ウェブサイト・オブジェ・写真・音などさまざまなメディアを用い、常識の背後にある見えない社会の本質や、境界を認識させる。	過去作品：忘れられた道, 大地の芸術祭 2015, photo Gentaro Ishizuka 
サハンド・ヘサミヤン (イラン) 1977 年 イラン、テヘラン生まれ。イスラム建築から影響を受け、反復する形、シンメトリー（対称）な構造を大胆に拡張した作品を制作する現代美術家。主に鉄を溶接して組み合わせた抽象的かつ大きな彫刻は、装飾的に見られがちなイスラム美術に、新たな視点を提示する挑戦でもある。	過去作品：The Third Line-1, 2014, Khalvat, Installation view 
ダイアナ・アルハディド (シリア) 1981 年 シリア、アレッポ生まれ。5 歳で渡米し、現在ニューヨーク在住。文学・歴史・建築・天文学などをベースに作品を展開。貧富の差、テクノロジーと開発、グローバリズムや過去の歴史を融合しながら「不可能な建築」をテーマに作品を発表している。	過去作品：Spells On Our Youth, 2009 
アイシャ・エルクメン (トルコ) 1949 年 トルコ、イスタンブール生まれ。イスタンブール及びベルリンを拠点に活動。国立フランクフルト美術アカデミー教授。そこで起きている現象に自由にアプローチし、それぞれの文化を否定せず、尊重し、文化の境界を自由に越境する。個々の場においてサイト・スペシフィックな作品を発表し、手法（技法、材料）にとらわれることなく、場所、コンテキストにふさわしいプランを構想し、絵画・彫刻・写真などの定義に属さない作品を創造する、コンセプチュアルアーティスト。	過去作品：Plan B, 2011, 54th Venice Biennial, Turkish Pavilion 

■奈良町でのアートプロジェクトの展開

江戸から明治期の歴史を感じさせる奈良町で、アートを鑑賞しながらまちなかを散策できるような魅力的な会場を市民とともに選びます。地域の伝承や歴史を生かす作風の作家を選定し、地域住民との交流を図りながらインスタレーションや、ワークショップ等のプロジェクトを展開します。

○期間：2016 年 9 月 3 日（土）～10 月 23 日（日）＜コア期間＞

(3) 基幹事業 — 食部門

奈良発祥といわれる食（大和茶、お菓子、漬物、お酒、饅頭、うどん等）のルーツを探り、奈良独自の食文化を体験できるプログラムを展開します。

■シンポジウム

パネリストとして春日大社神職の方を招き、春日大社にまつわる食文化のルーツを探ります。このシンポジウムを食部門のオープニングとして位置付けます。

■体験型文化プログラム

奈良市生涯学習財団と連携し、奈良ひとまち大学のプログラムの一環として、奈良発祥といわれる食をテーマとした体験型プログラムを展開します。

■集客参加型プログラム

シンポジウム会場・舞台芸術・美術会場等で、多くの人が参加・交流できるイベントを実施します。

(4) 交流事業

奈良市・寧波市・済州特別自治道それぞれの伝統芸能や音楽、学術研究等をテーマに交流し、相互理解を深め、複層的にさまざまなジャンルが影響しあって醸成される文化を立体的に発信します。日中韓の市民が、直接顔を合わせ、語り合い、交歓し合う交流事業を行います。

■奈良市オープニング

国際文化観光都市「奈良」を象徴する東大寺で、世界平和への祈りを捧げるとともに、「2016年東アジア文化都市」事業が奈良市で開催されることを世界に発信するため、シンポジウムや式典・オープニングステージを開催します。

○第1部 記念シンポジウム

日時 2016年3月26日(土)午後4時～6時(開場:午後3時半)

会場 東大寺総合文化センター 金鐘ホール

テーマ「移動と文化—黒潮文化圏としての東アジアから未来を展望する」

出演者:コーディネーター 北川フラム

パネリスト 青柳正規(文化庁長官)、伊藤亜人(東京大学名誉教授)

小島毅(東京大学大学院教授)、王勇(浙江工商大学教授)

全京秀(ソウル大学名誉教授)

ゲスト 蔡國強(参加アーティスト) ※ オープニングに合わせて作品制作が始まります。

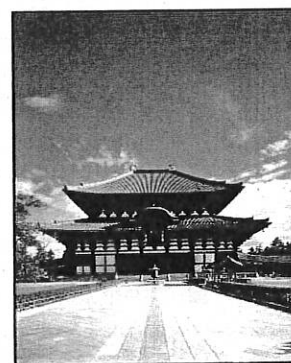
○第2部 式典・オープニングステージ

日時 2016年3月26日(土)午後6時半～8時半(開場:午後6時)

会場 東大寺大仏殿院内

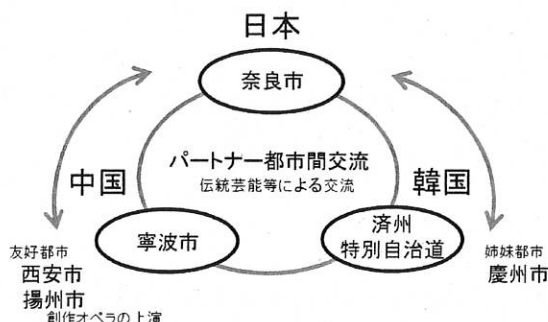
内容 奈良市・寧波市・済州特別自治道各都市によるオープニングステージ

各国を代表する映画監督による映像作品の上映



■伝統芸能等による交流

日中韓各都市で伝統芸能公演や民俗芸能のワークショップを相互開催することにより、市民交流に繋がります。寧波市・済州特別自治道（東アジア文化都市 2016 パートナー都市）以外に、奈良市の友好・姉妹都市である 西安市（中国）・揚州市（中国）・慶州市（韓国）とも芸能を通じて交流を深めます。



■映像制作による交流

なら国際映画祭実行委員会と連携して、市民の記憶に残るような日中韓の交流を図ります。

○「東アジア文化都市 2016 奈良市」映像交流プロジェクト

各国を代表する映画監督が、奈良市（日本）・寧波市（中国）・済州特別自治道（韓国）をテーマとした短編映像を制作し、映像を通じて 3 都市の交流を図ります。

初上映：2016 年 3 月 26 日（土）奈良市オープニング

その後、シンポジウム、各種プログラム、中国・韓国のプログラムで随時上映。

撮影監督：河瀬直美（日本）・ジャ・ジャンクー（中国）・オ・ミヨル（韓国）

各監督代表作		
河瀬直美（日本）	ジャ・ジャンクー（中国）	オ・ミヨル（韓国）
- 「萌の朱雀」(1997)	- 「一瞬の夢」(1997)	- 「チスル」(2012)
カンヌ国際映画祭・新人監督賞	ベルリン国際映画祭・最優秀新人監督賞	釜山国際映画祭・4 部門受賞
- 「殯の森」(2007)	- 「長江哀歌」(2006)	- 「Golden chariot in the sky」
カンヌ国際映画祭・審査員特別大賞	ヴェネチア国際映画祭・金獅子賞	など
- 「あん」(2015)	- 「罪の手ざわり」(2013)	
カンヌ国際映画祭・オープニングフィルム	カンヌ国際映画祭・脚本賞	

■文字をテーマとした交流とプログラム展開

日中韓の共通文化である「漢字」から読み解く文化の伝播と、それぞれの地で独自に発展し、新しい文化が醸成されてきた事象を通して、アジアの共通性と多様性を明らかにしていきます。

日中韓の大学生を対象に、日本の筆作りの発祥の地であり、日本の墨のほぼ全てを生産する奈良の地で、「日中韓共同常用八百漢字※」の作品制作・日中韓合同グループによる母国語の寄せ書き・展示会等、日中韓 3 か国の共通文化である「書」を通じた交流を行います。

また、「木簡」「石碑」「正倉院文書」など、奈良には古の書が多数残されています。私たち人類の最大の発明ともいえる文字は、あらゆる情報を伝搬し、記録してきました。これらの「文字」をテーマにしたプログラムも検討していきます。

※「日中韓共同常用八百漢字」は、漢字文化を共有する日中韓の交流を促進するため、2010 年に奈良で開催された日中韓賢人会議で提案され、三国の頻出漢字を基にまとめられた。

■青少年交流事業

中国・韓国の高校生を奈良市に招き日中韓合同グループを結成し、奈良で感じるモノやカタチ、歴史文化・生活文化など、各自でテーマを立てて撮影・発表をしてもらいます。「写真」という表現で現在の奈良に脈々と息づくアジアの共通性と多様性を明らかにします。

日程：8月上旬の5日間

場所：奈良市内（撮影）

■奈良市クロージング

閉会式典やパフォーマンス等を行い、「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業の一年間を振り返り、総括するとともに、日中韓3都市の今後の友好や2017年の国民文化祭、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けての礎とします。

(5) 連携事業

■企画連携事業

奈良ならではの発信力の高い催事や伝統行事と連携することで、「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業との相乗発信を図ります。

○平城京天平祭	春：5月3日（祝/火）～5月5日（祝/木） 夏：8月26日（金）～8月28日（日） 秋：10月29日（土）～11月6日（日）
○なら燈花会	8月5日（金）～8月14日（日）
○春日野音楽祭	9月18日（日）～9月19日（祝/月）
○なら国際映画祭	9月17日（土）～9月22日（祝/木）

■市民連携事業

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業を市民とともに盛り上げ、日中韓をはじめとした東アジア地域の友好交流を推進するため、市民が自ら企画・運営を行う文化団体等の事業を募集し審査のうえ採択し、支援します。

■広報連携事業

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業の趣旨に合致し、相互PRが可能な事業を募集し、広報連携事業として互いに公式ウェブサイトやSNS等において広報します。

応募及び実施期間（予定）：2016年2月上旬より募集開始、以降随時実施

4: コア期間

基幹事業の「舞台芸術」「美術」「食」の各プログラムを中心に、実施時期の重なる交流事業・連携事業を一体的に「古都祝奈良 ― 時空を超えたアートの祭典」として発信します。来場者は、舞台芸術や現代美術を古都奈良の文化・歴史とともに鑑賞するという、新しい文化的体験をします。

(1) 開催概要

名称： 東アジア文化都市 2016 奈良市 「古都祝奈良 ― 時空を超えたアートの祭典」

CULTURE CITY OF EAST ASIA 2016, NARA [Art Celebration in Nara—Beyond Time and Space]

期間： 2016 年 9 月 3 日（土）～ 10 月 23 日（日）（50 日間）

会場： 市内社寺・奈良町 ほか

内容： 野外舞台公演

万葉オペラ（なら 100 年会館）

アートインスタレーション（市内社寺、奈良町）

食プロジェクト（市内各所）

(2) 運営計画

来場者が各会場を快適に周遊することができるようなモデルコース、案内サイン等、環境整備を行います。

■特別交通・ツアーの造成

宿泊を伴う観光プランや会場を快適に周遊する特別交通、ガイド付き特別ツアー等を造成します。

■案内所（インフォメーションセンター）

主会場の玄関口等に案内所を設置します。各案内所では、作品展示場所やイベントの案内、交通機関や食の案内など、事業に関する各種情報を提供するほか、イベントチケット等の販売も行い、来場者の利便性向上のためのマルチステーションとして、きめ細かなサービスを提供します。

■情報ツールの作成

ガイドブックをはじめ、公式ウェブサイトなど多様なコミュニケーションツールを活用して、事業に関する各種情報を効果的に提供します。インターネットやモバイルサイトを利用し、アート作品情報・交通機関の情報など、来場者が必要とする情報を迅速かつ機動的に提供します。

■案内サインの作成

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業の主会場や連携会場に、作品銘板や、誘導サイン等を設置します。

■会場運営

サポーターを育成し、作品解説や作品メンテナンス等を担う人員を各会場に配置します。

5：広報計画

（１）基本方針

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業に関する情報を多様な層にタイムリーに提供するため、下記の方針のもと広報・誘客活動を行います。

■「奈良」ブランドの魅力を高める広報

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業の広報を通じて、伝統と創造が響きあう奈良の新たな魅力を発信することにより、国際文化観光都市「奈良」のブランド力の強化を図ります。

■ターゲットに応じた広報活動

市民向け、一般観光客向け、文化・芸術関係者向けなど、ターゲットに応じた広報活動を展開し、多様な層からの誘客を図ります。

■情報へのアクセスしやすさを重視

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業の最新情報に常にアクセスできるよう、特設 WEB や SNS などを活用します。また、インターネット等を利用しない層への情報アクセシビリティにも配慮し、ポスターやパンフレット等の紙媒体での情報発信も並行して行います。

（２）広報活動

ターゲットに応じて、下記の広報・誘客活動を行います。

■地元向け活動

地元の催事での出前広報・説明会等の開催などを通して、市民の認知度を高めるとともに、本事業を共に作り上げるサポーターの獲得を図ります。

■一般向け活動

特設 WEB・Facebook・Twitter などのコミュニケーションツールのほか、ポスター・チラシなどのさまざまな広報ツールやメディアを活用し、多様な層への情報発信と誘客を図ります。

■メディア向け活動

プレスリリースの配信・特設 WEB からの情報提供・プレス向けツアー・企画発表会等を開催し、各種メディアによる情報発信を促します。

■旅行事業者・観光関連企業向け活動

旅行事業者向けの説明会の開催など、観光関連団体と情報共有を図りながら、「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業を組み込んだ旅行商品の造成を促します。

■海外向け広報

WEB の活用や中韓パートナー都市を通じた広報活動により、海外からの誘客を図ります。

(3) 広報戦略

■メインビジュアルによる一貫性のある広報

VI※（ヴィジュアル・アイデンティティ）ディレクター浅葉克己氏の監修により、「東アジア文化都市 2016 奈良市」の一貫性ある広報を行います。また、コア期間のロゴマークも同ディレクターが作成し、統一感をもたせるとともに、コア期間の発信力を高めます。

※シンボルマークやロゴタイプをはじめとする視覚的な統一イメージ。



浅葉 克己

1940 年生まれ。

タイポグラフィ制作の第一人者。アートディレクターとして、日本の広告史に残る数多くの名作ポスター、コマーシャルを制作する。1987 年東京タイプディレクターズクラブを設立。

代表的な作品に、西武百貨店「おいしい生活」、サントリー「夢街道」、竹田薬品「アリナミンA」、長野オリンピック公式ポスター、ミサワホーム「ミサワデザインバウハウス」など。

■パブリシティを活用した展開

記者会見やプレスリリースを活用するなど、費用対効果の高いパブリシティを中心に展開します。

(4) 告知イベント・各種ツール

■企画発表会の開催

「東アジア文化都市 2016 奈良市」を内外に広報するため、奈良市と東京で企画発表会を開催します。

○奈良市：主に市民を対象とし、事業目的や内容を告知することを目的に開催します。「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業開始時期と合わせ、開催します。

日 時 2016 年 1 月 28 日（木） 午後 6 時半～午後 8 時

会 場 ならまちセンター市民ホール

○東 京：主に報道機関を対象とし、全国的な発信を図ることを目的に開催します。

■印刷物の制作

事前告知、案内サイン等、印刷物の目的を定め、適正な時期に制作配布します。

○告知ツール：チラシ・ポスターを制作します。

- ・通年ポスター（事業ポスター） 2016年1月～12月まで掲出
- ・通年チラシ（事業総合案内パンフレット） 2016年3月 オープニング～12月まで配布
- ・コア期間ポスター・チラシ 2016年7月～10月まで掲出・配布
- ・各プログラムポスター・チラシ プログラム開催時期に合わせて、適宜掲出・配布

○運営ツール：来場されたお客様向けのプログラムパンフレットや冊子等を制作します。

- ・コア期間ガイドブック 2016年7月～10月
- ・コア期間プログラムパンフレット 2016年7月～10月

■WEB サイト等の制作

特設WEB（専用ホームページ）を開設し情報の発信を行います。また、Facebook・TwitterなどのSNSを活用し、情報拡散を図ります。

○特設WEB 開設時期： 2016年1月29日（金）（アドレス：<http://culturecity-nara.com>）

■屋内外広告物の掲出

奈良を訪れた人・奈良市民を対象に、「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業開催年であることをPRするため、屋内外広告物を制作します。

○オープニング、コア期間：案内サイン・バナー（主会場までの誘導演出等。）

○通年：屋内外看板・のぼり旗等。

（5）記録

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業で実施される各プログラムを写真や動画等で記録し、有効に活用します。

■動画の配信

特設サイト等でリアルタイムに配信し誘客と告知に努めます。

■公式記録集の作成

主要プログラムを写真・文章等で示した記録集を作成します。

6: 支援者（サポーター）計画

基幹事業に関わる作品の制作・コア期間中の運営・交流事業で来日したアーティストたちの受け入れ・連携事業の主催者等、奈良市全体で取り組むべく、多様な支援者ネットワークの構築に向け、研修会やワークショップ等を開催します。

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業を支援する地元のサポーターを育成するとともに、国際サポーターを積極的に呼びかける等、本事業をきっかけに内外に多くの奈良ファンを作り、将来の奈良を支えるネットワークに繋がります。

（１）地元サポーター

■制作や広報活動

基幹事業の制作やワークショップ・広報活動等に参加します。サポーターが主体的に活動できるよう、事務局とリアルタイムで情報共有を図ります。

■オープニングやコア期間運営

会場誘導・受付・作品管理・ガイド等、イベント開催時には来場者を迎えるさまざまなサービスが必要となります。お客様を迎える奈良ならではのおもてなし等、サポーターたちが活発に活動することによって生まれてくるサービスが実施できるよう運営していきます。

■継続的な活動

「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業を一過性のイベントとして終わらせることなく継続的な市民活動に繋げるべく、事業を進める中で生まれた関係やアイデアをアーカイブしていきます。

特に、本事業をきっかけに新たな奈良の魅力を伝えるボランティアガイドの育成をめざして活動していきます。

（２）県内外サポーター

事業に直接関わるだけではなく、広い意味での奈良応援団・奈良ファンの方たちが集い、応援できる仕組みを構築します。

（３）国際サポーター

各国からのサポーターを受け入れられる態勢を整え、積極的に参加を呼び掛けます。

○国際ボランティア協会：コア期間準備のピークが予想される 8 月を中心に募集します。

（４）活動拠点・受入体制づくり

■サポーター事務局の立ち上げ

多種多様な人々が集うサポーター活動の活発化と、事務局とのスムーズな連携を図ります。

■サポーター事務所

気軽に立ち寄り交流できる事務所を立ち上げ、事業の情報発信拠点ともなるよう運営します。

○サポーターステーション：気軽に立ち寄れる情報発信センターも兼ねた昼間の活動拠点。

○宿舎兼事務所：県外のサポーター・国際サポーター・作家・アシスタント等の宿舎も兼ねた活動拠点。

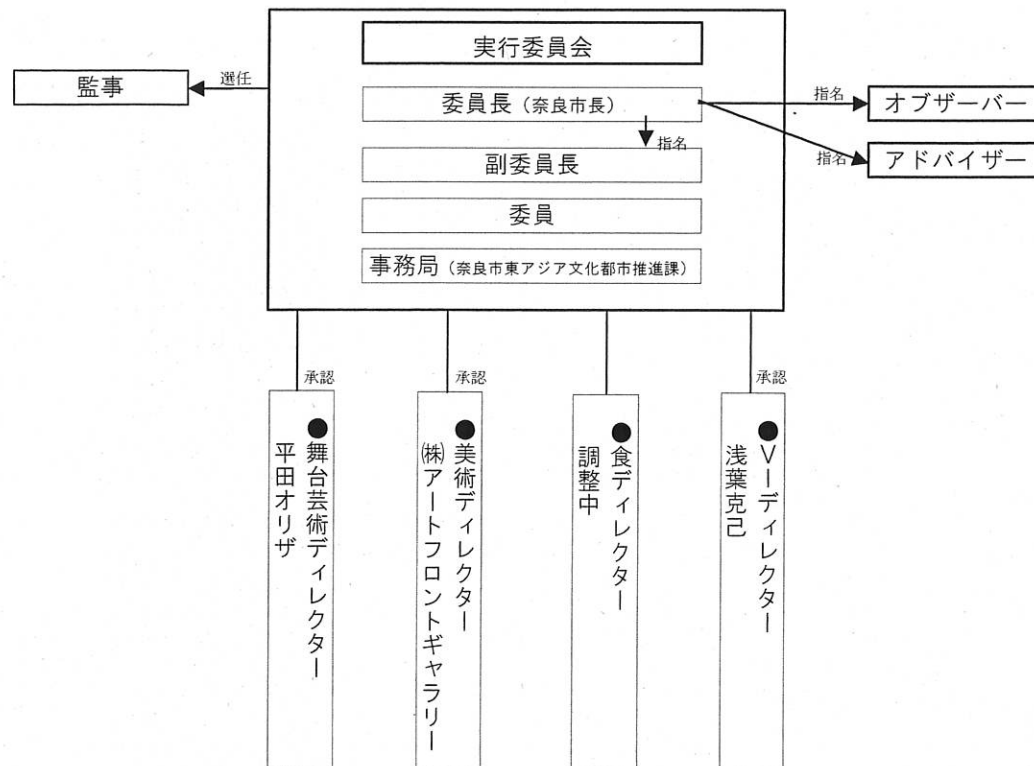
7: 事業推進スケジュール

2015 年 5 月 21 日	準備委員会立ち上げ(基本構想承認)
10 月 5 日	第 2 回準備委員会(基本計画承認)
12 月 20 日	日中韓文化大臣会合(3 都市正式認定)
2016 年 1 月 14 日	第 3 回準備委員会(ロゴマーク承認)
2016 年 1 月 27 日	実行委員会(実施計画承認予定)

	2016 年											
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
事業全体	27 日 実施計画承認		26 日 奈良市オープニング	7 日 済州道オープニング	15 日 寧波市オープニング				コア期間 (9/3~10/23) 「古都祝奈良 -時空を超えた アートの祭典」			クロージング(予定)
基幹事業				東大寺 公開制作	"船をつくる"プロジェクト			作品展示				23 日~25 日 公演
							美術制作(各会場)		美術展示			
							チケット販売		野外舞台公演			
								高校生と創る演劇				
							ワークショップ	オーディション	創作活動			
							食プロジェクト					
広報計画	28 日 特設WEBの開設 企画発表会					事業広告物掲出・配布						
						企画発表会(東京)						
							コア期間広告物掲出・配布					
							ガイドブック販売 プログラムパンフレット配布					
連携事業						広報連携事業 募集及び実施						
					平城京天平祭「春」			なら燈花会 平城京天平祭「夏」	春日野音楽祭 なら国際映画祭		平城京天平祭「秋」	
サポーター						広報・事業サポート						
							ガイド研修		ガイド・運営サポート			
							美術制作サポート					
									野外舞台公演サポート			
											高校生舞台公演サポート	
							食プログラムサポート					

8 : 事業推進体制

奈良市全体で取り組むため、実行委員会を立ち上げ、舞台芸術や美術等専門性の高い分野においては、ディレクターを設けます。



■実行（準備）委員会

事業計画に関すること、予算及び決算に関すること、規約の改廃に関すること、その他の必要な事項を決定します。

■オブザーバー

事業を円滑に進めるための支援を行います。

■アドバイザー

多様なジャンルの文化事業を総合的に実施する「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業全体について専門的な見地からアドバイスをを行います。

■ディレクター

舞台芸術や美術等各事業の実施のための指揮・監督を行います。

9 : 予算

[収入]

単位：千円

費目		平成 27 年度	平成 28 年度	備考
負担金収入	国庫支出金	40,000		オープニング委託費
	国庫支出金	29,500	100,000	文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業・補助金（平成 27 年度ベースで概算計上）
	市支出金	35,500	155,000	
合計		105,000	255,000	

[支出]

単位：千円

費目		平成 27 年度	平成 28 年度	備考
事業費	基幹事業	40,000	180,000	「舞台芸術」、「美術」、「食」等主要事業
	プレイベント	3,000		企画発表会
	オープニング	46,000		開会セレモニー、記念シンポジウム等
	クロージング		10,000	閉会セレモニー
	交流・連携事業		14,000	交流・連携イベント
広報宣伝費		10,980	20,000	広報宣伝費
事務管理費		5,020	31,000	事務費、運営費
合計		105,000	255,000	

※平成 27 年度については、補正後の予算。
平成 28 年度については、基本構想策定時の概算。